

## 環境共生推進のために

環境共生は、まず、すぐできることから始めましょう。また、ライフスタイルを見直していくことも大切です。さらに、環境共生が地域的な広がりを持って展開されることが期待されます。

# 1 ライフスタイルを見直してみる

建築・住宅を含めると建設分より運用分の方が2倍以上負荷が大きくなっています。県民それぞれが環境への意識を持ち、これまでの住まい方が正しかったかどうかを「もったいない」という視点で見直してみることが、CO<sub>2</sub>の削減など、環境共生への第一歩になります。

水の流しっぱなしや電気の付けっぱなし（待機電力も含めて）などの無駄をなくすという目的を持ち、実践することの満足感は大きいと考えます。

県民の取組メニュー		1世帯が1年間で減らせる二酸化炭素の量 (kg-CO <sub>2</sub> )	1年間で節約できる金額 (円)	1世帯が1年間で減らせる二酸化炭素の量 (合計) (kg-CO <sub>2</sub> )	1年間で節約できる金額 (合計) (円)
<b>居間・居室でのエコライフ</b>					
不要な照明はこまめに消す	2	120		197	10,700
テレビをつけっぱなしにしない	17	900			
冷暖(エアコン)の設定温度を1上げる	12	670			
暖房(エアコン)の設定温度を1下げる	21	1,170			
冷房(エアコン)の使用時間を1日1時間短縮する	8	410			
暖房(エアコン)の使用時間を1日1時間短縮する	16	900			
電気カーペットの使い方を工夫する	36	1,980			
こたつの使い方を工夫する	13	710			
家電製品を使わない時はコンセントからプラグを抜く	68	3,670			
部屋を片付けてから掃除機をかける	3	140			
掃除機の集塵パックはこまめに取り替える	1	30			
<b>台所でのエコライフ</b>					
冷蔵庫に物を詰めすぎたり、むやみに開けない	24	1,330		92	5,370
電気ポットを使わない時はコンセントからプラグを抜く	44	2,360			
火力は鍋底から火がはみ出さない程度に調節する	5	370			
洗ものをする時の給湯器の設定温度を2下げる	19	1,310			
<b>水まわりでのエコライフ</b>					
洗濯はまとめて洗う	2	130		153	10,480
使い終わったら温水洗浄便座のフタを閉じる	20	1,070			
シャワーの使用時間を1日1分短縮する	51	3,580			
お風呂はお湯が温かいうちに続けて入る	81	5,690			
<b>外出するときのエコライフ</b>					
自動車に乗らないで公共交通機関で移動する	144	7,310		236	12,010
1週間に1回往復8kmの車の運転をひかえる	93	4,700			
停車中はこまめにエンジンを切る	39	1,970		173	8,800
空ぶかしをやめる	29	1,450			
急発進、急加速をしない	67	3,390			
タイヤの空気圧の調整などの点検をする	36	1,820			
無駄な荷物を積んだまま運転しない	4	180			
ガソリン車からハイブリッド車へ買い替える	814	41,370			
<b>買うとき、捨てるときのエコライフ</b>					
買い物でのレジ袋は断る	58	-		389	18,130
照明は白熱灯より蛍光灯を利用する	32	1,720			
エアコンを省エネルギー型のものに買い替える	68	3,710			
冷蔵庫を省エネルギー型のものに買い替える	67	3,630			
テレビを省エネルギー型のものに買い替える	21	1,120			
ビデオを省エネルギー型のものに買い替える	4	200			
洗濯機を省エネルギー型のものに買い替える	7	360			
ガスコンロを省エネルギー型のものに買い替える	26	1,400			
給湯器を省エネルギー型のものに買い替える	107	6,000			
ごみの排出量を削減する	40	-	40		
食品トレーをリサイクルする	4	-	19	-	
空き缶はリサイクルする	6	-			
空きピンはリサイクルする	6	-			
ペットボトルはリサイクルする	3	-			
<b>家を建てるならエコ住宅</b>					
家の断熱性を高める	540	9,920	540	9,920	
太陽光発電装置を設置する	1,051	71,860	1,051	71,860	
ソーラーシステム装置を設置する	381	24,540	381	24,540	

出典：千葉県地球温暖化防止計画

地域風土と共生する建築物の知恵やデザインが、魅力あるまちづくりに寄与するよう、地域の環境共生を地域で考えていく取組みが期待されます。

### 地域の環境共生を考える

建物個々の環境共生にとどまらず、地域の人たちが連携して環境共生を考えていくことが大切です。

県民や事業者、設計者、NPO、行政等が、それぞれの地域の文化・風土を踏まえた環境共生のあり方をともに考え、提案し、実践していくことが期待されます。



里山活動団体による森林整備



千葉市打ち水大作戦

### 世代を通じて環境共生を伝える

環境共生を身近なものとして捉え、次代に伝えていくことが重要です。

学校での体験学習等により、環境や資源の大切さを学び、また、わが家の環境共生について家族で語り合うなど、世代を通じた取組みが期待されます。

### 建築物の環境共生アドバイザーの養成

建築物の環境共生を進めていくためには、まず、それぞれの地域で、環境共生の相談や整備へのアドバイスを行える人材が必要です。

県では、建築士などを対象に、研修会等により、建築物の環境共生について、アドバイザーなどの人材の養成に努めます。

### ちばCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>ダイエット出前講座

県では、県内の温室効果ガス排出量の削減に向け、家庭や事務所等でのエネルギー使用量の削減など地球温暖化対策の一層の推進を図るため、平成18年に「千葉県地球温暖化防止計画（ちばCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>（こつこつ）ダイエット計画）」を改訂しました。

その取組の一つとして、地域や学校、事業所、あるいは市町村で地球温暖化防止に向けた研修会等を開催する際に、「地球温暖化防止活動推進員」を講師として派遣するちばCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>ダイエット出前講座を実施しています。

問い合わせ先 千葉県地球温暖化防止活動推進センター（（財）千葉県環境財団）  
電話 043-246-2180

### 3 環境共生建築物に関する制度等

#### 省エネ法に基づく届出

省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）により、2,000平方メートル以上の建築物を建築する際、省エネルギー計画書の届出が義務化されています。

省エネルギー届出書とは、建築物の外壁や窓等を通しての熱の損失の防止や建築物に設ける空気調和設備等に関するエネルギーの効率的利用を行うための措置をまとめたものです。

#### 次世代省エネ基準適合住宅の評定（（財）建築環境・省エネルギー機構）

「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する建築主の判断の基準」又は「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する設計及び施工の指針」に定めるものと同様以上の性能を有する工法かどうかの評価を行い、適合すると判断されたものに対して「評定書」を交付する制度です。

次世代省エネ基準は、住まいの省エネルギー性を高めるための基準ですが、視野を広げれば「快適さ」「健康的」「省エネルギー」「耐久性」の4つのキーワードで表される、質の高い住まいを建てるのが主な目的となっています。

そのための手段として従来よりも一段と高い断熱気密性が求められているのであり、断熱気密以外にもさまざまな工夫を推奨していることが特徴です。

つまり住まいづくりの知恵を総結集してより質の高い住環境を実現していこうというものです。

#### 環境共生住宅認定制度（（財）建築環境・省エネルギー機構）

環境共生住宅の研究の成果として、「環境共生住宅認定基準」がつくられ、1998年にIBEC が認定制度を発足させました。

これは、基準に基づいて優れた住宅を認定することにより、環境共生住宅の普及を図ると同時に環境への配慮の重要性を広く啓発することを目的としています。

#### 住宅性能表示制度

住宅性能表示制度は「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に基づき、住宅の性能水準がどの程度のものかを客観的に第三者が判断する制度です。

項目ごとに等級で表した日本住宅性能表示基準を設け、指定住宅性能評価機関が評価を行います。

項目として、省エネルギー性能も含まれます。

#### 千葉県建築文化賞

建築文化・居住環境に対する県民の認識を高め、快適な街づくりを進めて行くことを目的に、優れた建築物の表彰を実施しており、平成10年度からは「エネルギーや資源の有効利用を図るなど環境に配慮した建築物」の部門を設けています。

#### 建築物総合環境性能評価システム「CASBEE」

日本の建築物の環境性能を総合的に評価するシステムとして、「CASBEE」が開発されています。今後、公共施設や民間建築物の計画において、CASBEEの有効な活用が期待されます。

#### 建築物総合環境性能評価システム（CASBEE）の概要

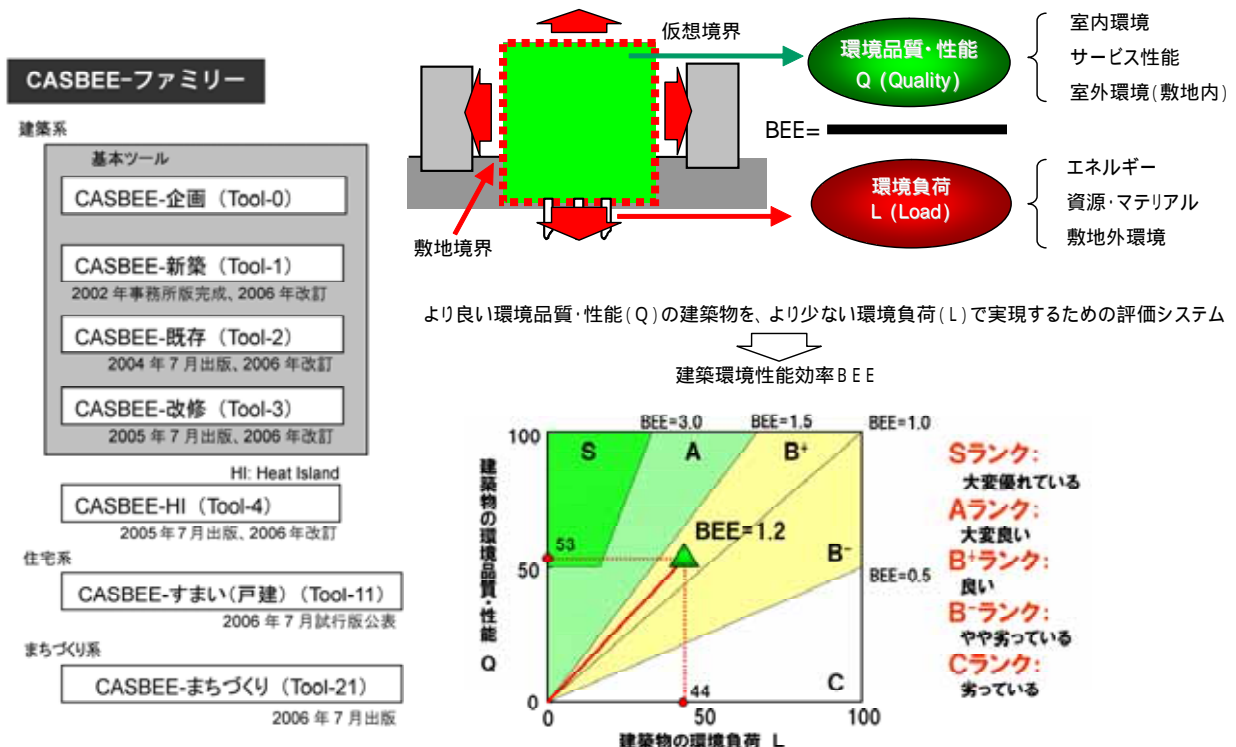
建築物総合環境性能評価システム(以下、CASBEE)は、日本の建築物の環境性能を総合的に評価するシステムとして開発されました。CASBEEを研究開発したJSBC(ジャパン・サステナブル・ビルディング・コンソーシアム)がその主体的な運営に当たっています。

CASBEEの目的は、省エネ・省資源などの単一指標で評価せず、環境品質と環境負荷について建築物を総合的に評価し、S、A、B+、B-、Cの5段階で格付けする手法です。

CASBEEには、建築物のライフサイクルに応じた4つの基本ツールと、個別の目的に応じた拡張ツールがあり、これらを総称して「CASBEEファミリー」と呼んでいます。

CASBEEでは、建築物敷地境界等による仮想境界で区分された内外二つの空間を想定し、境界内部の建築物の環境性能に係る要素(Q: Quality) 境界を越えて外部に与える環境負荷に係る要素(L: Loading) のそれぞれの環境配慮項目について取組を評価します。これらを統合し、建築物の環境性能効率(BEE: Building Environmental Efficiency)という数値を用いて、建築物の環境性能を総合的に評価するシステムとなっています。

建築物の環境性能効率BEEは、環境の品質・性能(Q)を向上した場合、また外部への環境負荷(L)を低減した場合ほど高い値となります。



## 4 環境共生建築物に関する制度等

### 環境共生建築物に関する支援

千葉市	住宅用太陽光発電設備設置費助成制度	
	ちば・エコファミリー(環境シェフ)	環境にやさしい生活に取り組む環境シェフ(我が家のエコライフノート(千葉市版環境家計簿)を実践し結果を定期的に市に報告する)に他の世帯の平均値と自分を比較できる統計情報の提供
	千葉市雨水貯留施設及び浸透施設工事費補助金	
市川市	市川市宅地における雨水の地下への浸透及び有効利用の推進に関する条例(市民あま水条例)	
	市川市住宅用太陽光発電システム設置助成事業	
	屋上等緑化助成事業	屋上緑化、ベランダ緑化、壁面緑化に対する助成
	生垣設置助成事業	
船橋市	船橋市雨水浸透樹設置指導基準	
	船橋市緑の保存と緑化の推進に関する条例	屋上緑化面積や壁面等緑化面積の一部を保存樹木等保全協定における緑地設置面積とみなすことができる
流山市	流山市グリーンチェーン認定	緑の価値を指標化し、開発事業を評価することで、個々の事業価値を高める
	生垣設置補助制度	
我孫子市	我孫子市環境条例	
	我孫子市雨水抑制施設設置補助金	雨水を地下に浸透させその流出を抑制する効果のある施設
	我孫子市住宅用太陽光発電設置費補助金	
	我孫子市緑地等の保全及び緑化の推進に関する条例	
	我孫子市道路きわ景観形成事業補助金	生垣や花壇の設置
松戸市	松戸市雨水浸透施設設置指導要綱	
習志野市	習志野市雨水浸透施設設置事業補助金	
印西市	印西市太陽光発電システム等設置費補助金	
	印西市生ごみ処理容器等購入費補助金	
	印西市合併処理浄化槽設置事業補助金	
柏市	雨水浸透ます設置費補助制度	
	柏市住宅用太陽光発電システム設置費補助制度	
市原市	市原市住宅用太陽光発電システム設置補助金	
佐倉市	雨水貯留浸透施設設置補助金	
	佐倉市宅地開発指導要綱	
浦安市	浦安市住宅用太陽光発電システム設置費補助金	